

文章にまとまりを持たせるために、指示表現は大切な役割を果たします。文章中の指示表現には「そ」または「こ」系のものを使い、ふつう「あ」系のものは使いません。

◆文章の中の指示表現はふつう、前に出てきた言葉や文を指します。しかし、考えたことや話の内容などの場合、指示表現の後に出てくるものを指すこともあります。

例・こんな場面を想像した。一人旅の飛行機の中である男性と知り合う。とても気があって、別れがたくなる……。

・今日は驚いたことがあった。そんなことは思ってもみなかったのだが、山田さんには子供が4人もいるというのだ。

◆「この」と「その」には次の二つの使い方があります。

a) [その+名詞]で「そ」が前の文章中のものを指す。「その」の「～」の

例・最近ある有名人と知り合いになった。そのお嬢さんがうちの子と同級なのだ。

(「その」の「ある有名人」の)

・新しい調理器具を買った。しかし、その使い方に慣れるまで時間がかかりそうだ。

(「その」の「新しい調理器具」の)

b) [この/その+名詞]全体で前の文章中のものを指す。「この/その～」の「～」

例・うちの子はある有名人のお嬢さんと同級だ。この/そのお嬢さんが先日うちに遊びに来た。

(「この/そのお嬢さん」=「ある有名人のお嬢さん」)

◆b)の使い方における「この」と「その」は、次のように使い分けられます。

「この」-1 話者と指すものとの関係が密接であることや、その場にいるような感じを示したいとき

例・11月27日に野外で大がかりな実験を行った。この日の天候は快晴、東からの風がやや強かった。



「この」-2 前の文章中の言葉(固有名詞または個別の言葉)を、その語を含む広い概念の言葉で言い換えるとき(「その」は使わない。)

例・庭にクリスマスローズを植えた。この花はクリスマスにもローズ(ばら)にも関係はないのだが、なぜかこの名前がついている。

(クリスマスローズ<花)

・夏目漱石の『こころ』を改めて読み返してみた。この作品は人間が持つエゴイズムと倫理観とをテーマにしたものだ。前に読んだときとは違う印象を受けた。

(『こころ』<作品)

「その」 指すものについて前の文章からは予想されないことを強調して言うとき(「この」は使わない。)

例・彼が作った歌は特徴のない普通の歌だった。その歌が大ヒットしたのだ。

・母は性格が明るく、いつもにこにこしている。その母が突然泣き出した。

◆そのほか「こう」と「そう」、「こんな・そんな」と「こういう・そういう」は次のように使い分けられます。

「そう」 前の文を指して「～(だと)思う・言う」「～だ」「～する」の形の文になるとき

(「こう」は使わない。)

例・健康の基本はバランスのとれた食事だそう。確かにそう言える。

・植物に声をかけながら育てると、いい花が咲くと言う。本当にそうだろうか。

「こんな・そんな」 限定されたそのものを指すとき

例・友達にある花の原産地を聞かれたが、そんなことは知らないと答えた。

・新しい年が始まったのになかなかやる気が起こらず、テレビばかり見ていた。そんなとき思いがけないニュースが流れた。

「こういう・そういう」 指すものの内容を示すとき

例・友達にある花の原産地や育て方などを聞かれたが、そういうことはこの本に書いてあると言って、本を貸してあげた。

・山川さんがこの1週間会社を休んでいる理由を、部長に聞かれた。実はこういう理由なのだ、詳しく彼女の事情を説明した。



問題1 どちらか適当な方を選びなさい。

- たとえこの計画に失敗したとしても、(a この b その)責任はわたし一人で負うわけではない。
- もし汚れがついたら、(a この b その)部分にこの液体を少し付けるといい。
- 「人間は考える葦である」……(a この b その)言葉の意味が小学生にわかるだろうか。
- (①a これ b それ)は人から聞いた話だが、脳の老化を防ぐには赤ワインがいいというのだ。本当だろうか。(②a こう b そう)だとしたら、わたしは毎日赤ワインを飲みたい。
- わが社は「ツーバイフォー」で家を建てている建築会社です。(a この b その)建築方法は、2インチ×4インチの決まった形の木材で壁の構造を作るやり方です。
- 田中氏ほど健康管理をしっかりやっている人は珍しい。(a この b その)田中氏が病気になるというのだ。本当に驚いた。
- 友人が生活のリズムを朝型に切り替えたなら何かといいことが多いと言っていた。わたしもさっそく(a こうして b そうして)みよう。
- 駅を出ると突然の大雨だった。どうしよう、傘を買おうかと思って歩き出した。ちょうど(a そんな b そういう)ときだった。後ろから傘を差し出してくれる人がいた。

問題2 どちらか適当な方を選びなさい。

皆さんは主題地図を知っていますか。(①a この b その)地図は、ある決まった目的のために使われる地図です。わたしたちがよく目にする名所案内の地図、食べ歩きやショッピングのための地図、町の文化施設や公園、避難場所を示した地図などが(②a この b その)例です。

「さくらクラブ」は主題地図を自分で作ってみようという人たちの集まりです。(③a この b その)団体は山歩きのグループとして出発しましたが、今では地図作りが主な活動です。地図を作るのは難しいことでしょうか。メンバーも最初は(④a こう b そう)思っていたようですが、今ではいろいろな主題に挑戦しています。写真の場合、同じ森を見ても、(⑤a この b その)美しさに感動して撮る人と、環境悪化を心配して撮る人がいるように、地図のテーマ選びにもその人らしさが表われます。

まとめ 次の文章を読んで、文章全体の趣旨を踏まえて、 1 から 5 の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

古今東西の健康法の本を読むと、必ず共通の考えかたが根底にあることに気づく。

それは、人間とは本来、健康で調和のとれた存在である、という考えかたである。人間はこの大自然の一部、宇宙の一部なのだから、もともとは健全で正しい姿であるはずだ。 1 不自然な生活習慣で歪んでいる。現代人はことに 2 。だからそれを本来の自然なすがたにもどしてやらなければならない。

これがほとんどの健康法の土台になっている思想である。 3 は、明るく、前向きで、気持ちがいい。究極のプラス思考といってもいいだろう。

たとえば呼吸法についての書物では、必ずとっていいほど赤ん坊の呼吸が理想の腹式呼吸として語られている。たしかに赤ん坊は大きくお腹を上下させて呼吸しているようだ。泣く声にもエネルギーがある。

以前、新幹線に乗ったとき隣席の赤ん坊が新横浜から京都まで、ずっと喉も裂けよとばかり泣きつづけて、耳がおかしくなったことがあった。迷惑するというより、あまりのエネルギーに、ただただ驚き呆れて、 4 泣きつづけられるだろうと興味をおぼえたほどだった。

しかし、赤ん坊の呼吸を天然自然の見事な呼吸法として、 5 、といわれても、どうだろうか。

(『元気』五木寛之(幻冬舎))

1

- | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|------|---|------|
| 1 | これが | 2 | それが | 3 | このため | 4 | そのため |
|---|-----|---|-----|---|------|---|------|

2

- | | | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|--------|---|--------|
| 1 | こうである | 2 | そうである | 3 | そうだろうか | 4 | どうだろうか |
|---|-------|---|-------|---|--------|---|--------|

3

- | | | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|-------|---|---------|
| 1 | この考え方 | 2 | その考え方 | 3 | あの考え方 | 4 | すべての考え方 |
|---|-------|---|-------|---|-------|---|---------|

4

- | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | ここまで | 2 | そこまで | 3 | どこまで | 4 | どうして |
|---|------|---|------|---|------|---|------|

5

- | | | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|---------|---|---------|
| 1 | ここに帰れ | 2 | そこに帰れ | 3 | あそこに帰るな | 4 | どこにも帰るな |
|---|-------|---|-------|---|---------|---|---------|